

# 本をひらけば夏が始まる



第64回  
青少年読書感想文  
コンクール  
「課題図書」

『一〇五度』 佐藤まどか／著  
『太陽と月の大地』 コンチャ・ロペス=ナルバエス／著  
『千年の田んぼ』 石井里津子／著

「課題図書」とは、新しく出版されたたくさんの本の中から、年齢に合わせて、多くの感動を得られたり、新たな知識を得られたりする本を、フィクション、ノンフィクション、外国作品などのジャンルから幅広く選ばれた本です。

読書感想文は「読書の幅」を広げるチャンスです。ふだん物語や小説をよく読む人は科学の本にチャレンジしたり、スポーツの本をよく読む人は伝記を読んだりしてみてください。

読書感想文コンクールに「応募してみようかな」と思っている人は、各学年の国語科の先生、または図書室まで来てください。



『一〇五度』 佐藤まどか／著 (913・サ)

都内の中高一貫校に、編入した真は中学3年生。スラックスをはいた女子梨々と出会い、極秘で「全国学生チェアデザインコンペ」に挑戦することに。中学生としては前代未聞の、この勝負の行方は？椅子デザイナーをめざす少年の、熱い夏の物語。



『太陽と月の大地』 コンチャ・ロペス=ナルバエス／著 (963・ロ)

16世紀スペイン。キリスト教徒の伯爵令嬢マリアと、伯爵家に長年仕え友情を育んできたイスラム教徒の家に生まれた少年エルナンド。ふたりの間には恋が芽生えるが、やがて両家の人々は異なる宗教・民族間の対立に巻き込まれていく。



『千年の田んぼ』 石井里津子／著 (616・イ)

秘境の離島に、聖徳太子の時代の「日本最古の田んぼ」がある！いったい誰が？ なののために？ 大地に刻まれた「奇跡の風景」の謎を解く。

どんな夏になるだろう。どんな未来になるだろう。  
真っ白なページからはじまる ぼくたちの物語。  
いっぱい泣いて、いっぱい笑おう。恐れることは、なにもない。  
冒険しよう。挑戦しよう。思いっきり、読書しよう。  
今日は、昨日より新しく 明日は、今日より新しい。  
一冊一冊、未来に進め。



「カドフェス 2018」より

<p>『十五少年漂流記』 ジュール・ヴェルヌ／著 嵐の夜、少年たちだけに乗せた船はニュージーランドの港から流されて無人島へと辿り着く。航海経験のあるブリアン、冷静なゴードン、優雅で誇り高いドニファンなど15人の少年はいかに団結し、仲違いし、生き抜いていくのか？</p> 	<p>『星空ロック』 那須田 淳／著 14歳の少年レオがギターを教えてもらった90歳の友人ケチル。彼が生前、話していた心残りはベルリンにあった。レオは夏休みを利用して、ケチルの願いを叶えようとする。でも、ベルリンの滞在期間はわずか3日。願いを果たせるのか。</p> 
<p>『夏への扉』 ロバート・A. ハインライン／著 ダンの愛猫ビートは、冬になると家中の扉を開けてくれとせがむ。ビートは扉のどれかが明るく楽しい夏へ通じていると信じている。そして、最愛の恋人に裏切られ、生命から二番目に大切な発明までだましとられたダンもまた「夏への扉」を探していた。</p> 	<p>『青い海の宇宙港』(春夏篇) 川端裕人／著 小学6年生の天羽たちは、ロケットの発射場がある多根島に宇宙遊学生として転校してくる。豊かな自然環境と最新科学技術が同居する島で、ロケットの打ち上げをめぐる、島じゅうを巻きこんだ一大イベントを展開してゆく。</p> 
<p>『黄色い目の魚』 佐藤多佳子／著 周囲と溶け合わずイラストレーターの叔父だけに心を許しているみり。絵を描くのが好きな悟は、美術の授業でデッサンして以来、気がつくともみりの表情を追っている。友情でもなく恋愛でもない、名づけようのない強く真直ぐな想いが、二人の間に生まれていく。</p> 	<p>『深夜特急』(全6巻) 沢木耕太郎／著 26歳の時、旅に出た筆者。香港、マカオからシルクロードを経てロンドンまでおよそ2万kmの貧乏旅行。さまざまな出会いと失敗が、新しい発見につながっていく。</p> 
<p>『トム・ソーヤーの冒険』 マーク・トウェイン／著 ミシシッピ河岸の平和な村を舞台に、トムとハックが大活躍する、痛快な冒険物語。</p> 	<p>『ひとつの。真夏に読みたい五つの物語』 夏好きさんも、夏嫌いさんも。いつもと違う「夏」になる短編集。大島真寿美、瀧羽麻子、藤谷治、森見登美彦、柳月美智子が競作。まぶしい日差しの中、きらきら光る刹那を切り取った物語を集めました。</p> 
<p>『向日葵の咲かない夏』 道尾秀介／著 本格派というよりは、ファンタジー要素が入った変化球ミステリー。夏休み前の就業式の日に、首を吊って死んでいたS君を発見。しかし数日後、S君はあるものに生まれ変わって目の前に現れ、「僕は殺された」と告げる。</p> 	<p>『夏の庭—The Friends』 湯本香樹実／著 夏の定番。人の死を見たいという少年時代ならではの残酷な好奇心から、老人にふれて変わっていく少年たちの成長、そして笑って泣けて爽やかで、感動できる全てを詰め込んだような作品。</p> 